

(様式例)

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・5年生においては、前年度に比べ目標値を下回った項目が減った。
- ・5年生においては、資料から事実を読み取る問題や、資料を基に判断する問題の正答率が上がっている。

(2) 課題

- ・地図を読み取ったり、地図と資料を複合して考えたり問題の正答率がどの学年においても低い。基本的な地図の読み方や、様々な地図が表している内容を捉える学習が必要である。
- ・記述式の問題はどの学年においても正答率が低い。日頃から資料から分析したことや自身が考えたことを文章にする学習が必要である。
- ・6、4年生は特に資料を読み取ったり、分かったことを答えたりする問題の正答率が低い。そのため、資料の読み取り方を改めて指導する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

| | 令和5年度結果 | 令和4年度結果 | 令和3年度結果 |
|------|--|---|--|
| 第4学年 | ▽安全なくらし、市の様子の移り変わりの理解、思考・判断の問題の正答率が目標まで達していない。 ▽資料を読み取り表現したり、考えたりする問題の正答率が低い。 | | 数値を直接公開することは避けてください。 例えば、教科の観点ごとに、正答率の平均が目標値の関係を記号（△▽等）で表したり、自校の達成率を比較して上昇、下降をポイントで示したりすることは可能です。 |
| 第5学年 | △資料から分かったことを、読み取って判断する問題の正答率が目標まで達している。 ▽人々の生活環境に関する理解に関する問題の正答率が目標まで達していない。 | ▽地図記号や商店、昔のくらしの理解を図る問題の正答率が目標まで達していない。 ▽資料の内容を理解して考察したりする問題の正答率が低い。 (第4学年時) | |
| 第6学年 | ▽ほとんど全ての項目で目標を下回っている。 ▽資料を基に判断したり、各産業が抱える問題点を考えたりする問題の正答率が特に低い。 | ▽半数の問題の正答率が昨年より下回っている。特に、資料の内容を理解して考察したりする問題の正答率が低い。 (第5学年時) | ▽地図記号や方位の理解をもとに、与えられた条件から目的地を読み取ったり、資料の内容を理解して考察したりする問題の正答率が低い。 (第4学年時) |

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・目標値と同等か下回っている問題が多い。 ・写真や年表から様子などを読み取る問題は、目標値より下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に考えたことを記述する問題は、無回答の割合が半数近くおり、正答率が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標値より下回っている問題が多い。 ・複数の資料を基に考え表現する問題は、資料の読み取るポイントを抑えて指導する必要がある。 |

② 高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・5年生においては、目標値と同等か、上回っている項目が多い。 ・6年生においては、ほとんどの項目で目標値より下回っている。 ・大陸の位置や日本の土地の名称、工業地域等の名称について確認を行う必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年生においては、ほとんどの項目が同等か、上回っている項目が多い。 ・6年生においては、全ての項目で目標より下回っている。 ・複数の資料を組み合わせで考えたり、表現したりする問題は、正答率が低い。日頃から様々な資料を活用し、考える必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・無回答の割合が高いため、正答率が低くなっている。 |

3 授業改善のポイント (観点別)

(2) 中学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地図記号や都道府県の名称について、実際の地図から読み取ったり、カルタなどを活用したりして、何度も振り返ることが必要である。 ・都道府県に関しては、名称だけではなく、各県の位置も押さえる必要がある。その為、日頃から地図帳を活用し、各都道府県の位置を調べる必要がある。 ・まとめの活動では、言葉で端的にまとめられるように、資料の読み取るポイントを指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を通して学習問題への意識を付ける為、授業中に学習問題に振り返る時間を設ける。 ・調べる学習では、資料を精選し、資料から分かることは何かじっくりと考えられるようにする。 ・複数の資料を活用する際には、同じ点、違う点等視点を明確にして考えて読み取るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークや授業協力者等を活用し、実物に触れる機会を設けることで児童の関心を高める。 ・調べ方や調べる順番などを児童に選択・判断させる等、児童が自由に調べられる授業展開を行う。 |

(3) 高学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">教科書の単元のまとめのページやミニテストなどのプリントを活用しながら、社会的用語を理解したり、おさえるべき、社会科用語は確実に板書してノートに書かせたりする。単元後には、単元を振り返られるようなプリントなどに取り組み、既習事項が理解できているか確認する。 | <ul style="list-style-type: none">学習課題や資料の読み取りについて、ペアや小グループでの意見交換や話し合いをしていく時間を設ける。自分の考えとの差異を見付け、様々な視点から物事を考えられるようにする。資料集や地図帳などの補助教材は常に身近に用意し、学習の中で意図的に活用していく。資料の読み取りでは、様々なグラフや表の見方や考え方を指導する。 | <ul style="list-style-type: none">導入を工夫して、学習に見通しがもてるようにする。単元の終末では、新聞や、ポスター、カルタ、自作年表など単元のまとめ方を工夫する。まとめかたは単元の導入や中盤までに児童と合意形成を図り、単元の学習が自分事になるようにしていく。 |

(様式例)

令和5年度 **科 授業改善推進プラン

大田区立**中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・
- ・

数値を直接公開することは避けてください。

例えば、教科の観点ごとに、正答率の平均が目標値の関係を記号(△▽等)で表したり、自校の達成率を比較して上昇、下降をポイントで示したりすることは可能です。

・
(2) 課題

・
・
・

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

| | 令和5年度結果 | 令和4年度結果 | 令和3年度結果 |
|------|---------|---------|---------|
| 第1学年 | | | |
| 第2学年 | | (第1学年時) | |
| 第3学年 | | (第2学年時) | (第1学年時) |

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| | | |

② 第2学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| | | |

③ 第3学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| | | |

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| | | |

(2) 第2学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| | | |

(3) 第3学年

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| | | |